

1 単元名 配列を整えて書こう 5 年生「考える子」 6 年生「温かい心」

2 単元目標

5 年生	6 年生
<p>○漢字と平仮名の大きさの違いと配列に気をつけて、書こうとしている。 （関心・意欲・態度）</p> <p>○漢字と平仮名の大きさの違いや用紙全体に対する文字の大きさについて、考えることができる。 （思考・判断）</p> <p>○漢字と平仮名の大きさの違いと配列のポイントを理解し、気をつけて書くことができる。 （知識・理解・技能）</p> <p>○他の学習や日常生活のなかでも、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識を持つことができる。 （書写の日常化）</p>	<p>○点画のつながりと配列に気をつけて、書こうとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>○点画のつながりや用紙全体に対する文字の大きさについて、考えることができる。 （思考・判断）</p> <p>○点画のつながりや配列のポイントを理解し、気をつけて書くことができる。 （知識・理解・技能）</p> <p>○他の学習や日常生活のなかでも、用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識を持つことができる。 （書写の日常化）</p>

3 指導上の立場

(1) 単元について

5 年生	6 年生
<p>本単元の題材『考える子』には、これまで学習してきた「折り返し」「そり」といった基本点画の要素や「画の長さ」も含まれているが、5 年生の毛筆教材としてはじめて扱いがあった「配列」を中心に組み込んでいく。</p> <p>配列よく書くポイントは、「文字どうしの大きさ」「文字と行の中心のとり方」「余白」「字間」「行間」などがある。このポイントを参考に自分のめあてを選ぶことで、課題を焦点化して取り組むことができる。自己の課題として達成できていないところは何か考え、その課題解決に向かえるよう指導していきたい。最後に国語のノートを見直すことにより、日常書写へとつなげていきたい。</p>	<p>本単元では、『温かい心』を題材として、「漢字と平仮名」の配列と一文字の中での点画のつながりを意識した書き方を学ぶ。</p> <p>まず、前学年の『あこがれ』で学習した、次の線へつながるような気持ちで穂先を動かしていく書き方で「温」「心」について学習する。一文字を書き上げるまで、なるべく墨をつけ直さないよう指導し、点画のつながりを意識できるようにしていきたい。</p> <p>次に今までに学習してきた配列のポイントから、自分のめあてを選ぶことで、課題を焦点化して取り組むことができる。自己の課題として達成できていないところは何か考え、その課題解決に向かえるよう指導していきたい。最後に国語のノートを見直すことにより日常書写へとつなげていきたい。</p>

(2) 児童の実態

本学級の児童は、5 年生 1 名、6 年生 1 名である。二人とも文字を書くことはあまり好きではないが、正しい姿勢で集中して書くことができる時間が増えてきた。他の教科でも丁寧に書こうとしている姿も見られるようになった。書写の時間は一人ずつ学習する時間の方が多いが、一緒に学習した時は、互いによくなったところを指摘できるようになってきている。そこで、さらに書写を好きになったり自分の字に自信が持てるようになったりするために、互いに関わり合って認め合う活動を取り入れていきたい。本単元は、5 年生・6 年生とも中心となる目標が「配列よく書く」と同じなので、ポイントを絞った交流ができると考えられる。

なお、個別の実態は次に示すとおりである。

個別の実態（実態調査・アンケート・今までの学習から）	
5 年生	6 年生
<ul style="list-style-type: none"> 準備・片付けの時遊び半分であることがある。 気分により取り組み方にむらがある。 基本的な筆使いが今一歩である。 （特に筆をたてる、始筆、はね、筆圧） めあてや練習量など自分で決めると意欲的に頑張ることがある。 失敗したと思うと気になって書き進めることができなくなる。 配列についての知識はあるが、技能的には今一歩である。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備や片付けに時間がかかる。 手本を見て一生懸命練習できる。 基本的な筆使いが今一歩である。 （特に筆をたてる、始筆、はね） 自分でめあてを決めたり、練習方法や練習量を決めたりすることができる。 配列について理解できているが、技能的には今一歩である。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成ー自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習ー』に迫るために次のような工夫をしていきたい。

- 主体的に学び、日常化の図れる工夫
 - ・課題を明確に持つことができるようにするため、配列のポイントを示した振り返りカードを用意し、記入できるようにする。また、どのように書けたらよい評価になるかゴールの姿を考えて記入し、評価しやすいようにする。
 - ・めあて、練習用紙、練習量を自分で決めさせ、主体的に意欲を持って学習できるようにする。
 - ・自分の課題をはっきりつかませるために、自己批評に必要な教具を用意しておく。
外形カード（透明で色つき）、中心線シート（透明）、余白・字間・行間シート（透明）
- 基礎・基本を身につけさせるための工夫
 - ・基準を明確につかませるため、それぞれ悪い例を示し、見つけることができるようにする。
 - ・筆使いについては、常にその動画を見て確認できるようにしたり声かけをしたりして、よりよい筆使いをめざせるようにする。
 - ・筆圧については、数値化してわかりやすいようにする。
- 自己の伸びを実感させる評価の工夫
 - ・二人で学習する時間を設定し、めあてを決める時に話し合ったり、まとめ書きを評価し合ったりして、互いに認め合えるようにする。

4 指導計画（全3時間）

5年生	6年生
第1時 漢字とかなの大きさに気をつけて「考える子」を書く。	第1時 点画のつながりを意識して「温」「心」を書く
第2時 配列について理解し、「考える子」を書く。	第2時 配列について確認し、『温かい心』を書く。
第3時（本時） 今までに学習してきたことを生かして自分でめあてを選び、配列よく書く。	第3時（本時） 今までに学習してきたことを生かして自分でめあてを選び、配列よく書く。

◎第2時・第3時は、二人で同じ時間に学習する。

5 本時案（第3時）

目標	全 体	○配列のポイントを理解し、自分のめあてを決めて気をつけて書くことができる。		学習評価
	個 別	5年生 A 児 ○これまでの学習を生かして自分のめあてを選ぶことができる。 ○これまでの学習を生かして、漢字と平仮名の大きさと配列に気をつけて書くことができる。	6年生 B 児 ○これまでの学習を生かして自分のめあてを選ぶことができる。 ○これまでの学習を生かして、点画のつながりを意識しながら配列に気をつけて書くことができる。	
学習活動		教師の指導・支援		
1 本時の学習のめあてを確認する。	○前時の学習を前時のまとめ書きや資料、振り返りカードで振り返り、良くなったところ、直したほうがよいところがどこであったかをはっきりと確認することができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ○これまでの学習を生かして自分のめあてを選び、配列を整えて書こう。 </div>			
2 自分のめあてを選ぶ。	○配列を整えて書くために気をつけた方がよい点について、教師や友だちの意見を聞き、参考にしながら自分のめあてを選ぶことができるようにする。 ○5年生がめあてを選ぶ。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> 5年生 A 児 前時のまとめ書きで配列について直した方がよいところに気づくようにシールや教具を使って、まとめ書きに表したり助言したりする。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> 6年生 B 児 前時のまとめ書きと手本を比べて、文字の大きさや字と字の間の開け具合などで気がついたことを発表できるように助言する。 </div> </div>			○配列を整えて書くために自分のめあてを何にすればよいか考え、適しためあてを選んだか（思考・判断）

○ 6年生がめあてを選ぶ。

5年生 A児
前時のまとめ書きと手本を比べて、直した方がよいところを具体的に発表できるように助言する。

6年生 B児
前時のまとめ書きと手本を比べて、直した方がよいところに気づくことができるようシールや教具を使って、まとめ書きに表したり助言したりする。

配列のポイント（めあて）

- ・文字どうしの大きさを考えて書く。
- ・左右の行の中心，文字の中心をそろえて書く。
- ・半紙の余白・字間・行間を整えて書く。

○見通しを持って主体的に学習できるように，教師と話し合っ
てゴールの姿を決め，振り返りカードに記入する。

3 練習する。

○意欲的に練習するために自分のめあてにあった練習用紙・
量を自分で選ぶようにする。

練習用紙

- ・籠書き ・骨書き
- ・外形（字間・行間・余白を意識して）
- ・中心線（文字・行の中心を意識して）

○練習用紙を使った練習が終わったら，白紙の用紙に練習す
る。教具を使って自己批正し，気をつけることを見つけれ
ながら練習できるようにする。

5年生 A児
めあてにあった教具で自
己批正できるように助言
し，直すためにもう1枚練
習するか相談する。しない
場合は，まとめ書きで気を
つけて書くよう確認し，ま
とめ書きを指示する。した
場合は，練習後もう一度確
認し，まとめ書きをするよ
う伝える。

6年生 B児
めあてにあった教具で自己
批正できるように助言し，直
すためにもう1枚練
習するかどうか選択する。練
習後もう一度確認し，まと
め書きをするよう指示す
る。

4 まとめをする。

○まとめ書きをする前に自分のめあてとゴールの姿を振り
返ることで，意識して書くことができるようにする。

○前時と本時のまとめ書きを比べて，めあてが達成できたか
どうか（ゴールの姿と比べて），振り返りカードに評価を
書くとともに，教師と友だちの感想を聞き，伸びを感じる
ことができるようにする。

○国語ノート的一部分を学習したことを生かして直し，他の
教科に生かすことができるようにする。

5年生 A児
自分の評価が低いときは
納得させるように教師がし
っかり褒めるようにする。

6年生 A児
自分の評価が低いときは，
友だちの評価を大きく取り上
げ，しっかり褒めるようにす
る。

○配列のポイ
ントを理解
し，気をつ
けて書くこ
とができ
か。（技能
・知識・理
解）

□ 共通のめあて □ 個別の支援 □ その他（指導のポイントなど）